

平成 30 年 6 月 9 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04317

研究課題名(和文) 博物館学芸員課程における学びの特徴と現代社会に対応した学芸員養成教育に関する研究

研究課題名(英文) A study of learning outcomes of Gakugeiin(Japanese curator) qualification programme and evaluating its contents towards the needs of modern society

研究代表者

江水 是仁 (Emizu, Tadahito)

東海大学・課程資格教育センター・准教授

研究者番号：40609351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、学芸員養成科目を担当する教員の特徴、学芸員養成課程修了者の学びの特徴、博物館実習を受け入れる館園の特徴をアンケート調査等を用いて行った。その結果、博物館の資料分野に関する研究を行う教員が学芸員養成科目を担当する機会が多いこと、学生の学芸員資格取得動機の違いによる学びの差が大きいこと、博物館実習を博物館類似施設や学芸員資格がない担当者が行う館園があること等が分かった。

これらから、より充実した学芸員養成教育を展開するために、博物館学を研究する教員が学芸員養成科目を担当すること、一般教養科目と学芸員養成科目とに博物館学を分けること、学芸員有資格者が必ず実習を担当すること等を提案したい。

研究成果の概要(英文)：In this research, we examined the following aspects of Gakugeiin (Curator in Japanese context) training programme; the professional background of faculties, students' learning outcomes from this programme, and the contents of practical training managed by museums around Japan.

As a result, from our questionnaire survey, a large number of faculties are specialists in their academic fields, students' learning outcomes are heavily dependent on students' motivation towards Gakugeiin qualification, and there were cases where practical training were run by museum similar institutions or trained by unqualified staff. Thus, it is suggested that more faculties from museum studies background to teach in this programmes, museum studies should be taught as a separate subject, one in liberal arts and another as a specialized, and qualified staff are desirable in leading the practical training for the students.

研究分野：博物館学

キーワード：博物館 学芸員 学芸員養成課程 学芸員養成教育 博物館実習 博物館学

1. 研究開始当初の背景

生涯学習社会を達成するためには、社会教育機関で専門職としてその任務にあたる人材の養成が極めて重要である。社会教育機関の一翼を担う博物館の専門的職員である学芸員の養成において、文部科学省が平成21年2月に公表した『学芸員養成の充実方策について』では、これからの博物館には、社会の変化を把握し、生涯学習の拠点として教育や学習を支援する役割等をさらに充実させることが求められていること、そしてそれらに対応できる学芸員が求められると指摘している。さらに大学における学芸員養成教育に関しては、学芸員資格取得を目指す学生が、博物館の社会的意義やその必要性等の理解を図り、博物館について知識理解を深めるのみならず、専門的職員たる学芸員としてのスタートが切れるだけの基本的な素養を身に付ける必要があると指摘している。それらの指摘を踏まえ、開始時期は大学により一律ではないものの、多くの大学では平成24年度より、新たな博物館に関する科目が加わり、また単位数も増えた形で学芸員養成教育(新カリキュラム)が始まっている。

申請者は、学芸員養成教育を受けた学生に対して、旧カリキュラムにおける「博物館及び学芸員の役割に関する学び」の実態を明らかにし、博物館の社会的意義やその必要性についてどのように理解しているのか、また生涯学習社会達成の一翼を担う専門的職員である学芸員としての基本的な素養が身に付いているかどうかを把握すべく、平成24年度全国大学博物館学講座協議会東日本部会より研究助成を受け、その実態に迫った。9大学の学芸員養成教育修了者266名によるアンケート調査の結果、博物館活動や博物館学、文化財保護に関する興味関心は高まる傾向にある一方で、世界情勢や政治に関する興味関心はほとんど変化していないことがわかった。また9大学間でのアンケート調査結果を比較すると、非常にばらつきがあり、大学における学芸員養成教育の質的担保ができていない可能性があることもわかった。また、館園実習先の実習内容に関するアンケート調査結果をみると、学芸員として最低限の知識経験が身に付けられ、新カリキュラムに十分に対応し得る内容もあれば、一方で来館者向けイベントの手伝い等に終始し、アルバイト感覚で館園実習生受け入れている館園も少なくないことがわかった。

これらから、学芸員養成教育の中でどのような学びがあったのかの実態が把握されていない、各大学の学芸員養成課程の教育内容が全国的に把握されていない、館園実習のカリキュラム内容の実態が把握されていない、等の課題があることがわかった。

2. 研究の目的

社会教育機関の一翼を担う専門的職員として養成されるべき学芸員に求められる知

識や経験を修得するための博物館学芸員養成課程のあり方と、社会教育学・博物館学の深化を図るために取り組むべき課題を以下のように設定した。

課題1 学芸員養成教育を受けた学生の学びの特徴についての把握・分析

学芸員養成教育の新旧カリキュラムにおける「学びの実態」を比較する。まず旧カリキュラムでの博物館や学芸員に関する「学び」が、新カリキュラムにおいてどのように変化したのかを明らかにする。そして文部科学省が指摘している、学芸員として基礎的な素養が身に付いているかどうかを、博物館学芸員課程が開講されている大学で、学芸員課程科目の履修をすべて修了した学生に対するアンケート調査(一部聞き取り調査)により明らかにする。同様に先駆的な取組がされる大学の博物館学芸員養成課程の活動を明らかにする。

課題2 実習生を受け入れる博物館における館園実習のカリキュラム内容の把握・分析

博物館園により、館園実習の内容は大きく異なる。そこで、館園実習先の実習内容を把握し検討する。そして、新カリキュラムに基づく文部科学省『博物館実習ガイドライン』で求められる内容と、実際の館園実習の内容を比較・分析する。最終的には、新カリキュラムの中で、学芸員として身に付けておくべき素養を達成するための館園実習のあり方についての検討を行う。

3. 研究の方法

全国の大学の学芸員養成課程のシラバスに記載されている内容と担当教員を、インターネットを中心に収集し、学芸員養成課程教育担当者の特徴を整理・分類する。

学芸員養成教育を通じた学びの特徴を明らかにするためのアンケート調査を、博物館実習が終了した履修者を対象に行った(平成28年1月から平成29年4月まで。28大学から有効回答数590名)。

博物館実習を行う博物館園に対し、博物館実習の実態把握と特徴を明らかにするためのアンケート調査を行った(平成28年11月～平成29年3月まで。509館園から有効回答)。

4. 研究成果

において、学芸員養成教育を担当する教員の55%は大学の専任教員であり、21%が現役の学芸員であった。また、専任教員のうち、博物館資料に関する専門分野の研究者が多く、博物館学の研究者は少ない。

専任教員が所属する学部学科は、圧倒的に人文・社会科学系分野に所属するものが多く、自然科学・なかでも理工学・分野に所属する教員は極めて少ない。

新カリキュラムに対応すべく新たに開講された科目の、博物館情報・メディア論、

博物館教育論、博物館展示論、博物館経営論、博物館資料保存論では、専任教員の割合が40%以下であった。

において、学芸員資格取得動機では、旧カリキュラムで行った調査と比べて、「就職に有利」と回答した割合が、今回の調査（新カリキュラム）で大幅に減少した。

学芸員資格取得動機の違い - 学芸員になりたい、博物館学を深化したいといった動機か、両親からの勧め、就職に有利かといった動機か - による学びの差が大きい。

学芸員養成教育を学修したことにより、修了生が所属する学部に関係なく、様々な館種の博物館の見学頻度は増加する傾向にあった。

学芸員養成科目の中で、「博物館展示論」と「博物館資料論」が、修了者にとって深く学びたかった科目・博物館実習で役に立った科目として挙げる割合が大きい。

において、博物館実習生を指導する博物館職員は3名以下である場合が多い。また指導する博物館職員の1割は学芸員資格を持っていない。特に、植物園や動物園では、学芸員資格を持たない職員が博物館実習の担当者となっている割合が大きい。

博物館実習を行っている館園のうち、約3割が法的に博物館ではない博物館類似施設であった。特に、理工系博物館、歴史系博物館において類似施設の割合が大きい。

博物館職員のうち、博物館で勤務するために学芸員資格を必要としなくても勤務できると回答した割合は15%であった。

これらから、課題1に関しては、新カリキュラムを受講する履修生の多くは、単に無目的で学芸員資格取得を目指すよりは、学芸員資格を取ることによって何をしたいのか、学芸員資格取得の目的がより明確になってきているものと思われることから、ある程度は新カリキュラムの目的は達成しているものと思われる。しかしながら、学芸員養成教育を担当する教員は、博物館資料に関する専門分野の研究者が多く、博物館学を専門とする研究者が少ないことから、博物館資料に関する専門分野の博物館に関する知見などは多く有しているものと思われるものの、異なる分野の博物館に対する理解や関心が薄いものと思われる。よって、博物館資料に関する専門分野から博物館を視座する以外に、博物館学を研究する教員が学芸員養成科目を担当することが求められる。また、資格取得には興味はないものの、博物館資料や博物館情報を通して、多種多様な人々の考え方や価値観に触れることができるといった学芸員課程での学びの特徴から、多文化共生・異文化理解のための一般教養科目としての博物館学と、学芸員養成科目としての博物館学に分けることも求められる。

課題2に関しては、法的に博物館ではない博物館類似施設で博物館実習が行われてい

たり、学芸員資格を持たない博物館職員が博物館実習を行っていることから、登録博物館や博物館相当施設の法的に博物館と認められる施設でのみ博物館実習を行うことや、学芸員資格を持つ職員が博物館実習を担当するなどのルールを作るといったことも必要になるかと思われる。と同時に、法的には博物館ではないものの、実質的には博物館として機能している博物館類似施設の位置づけ、学芸員資格を持たなくても博物館業務にあたることのできる現状に対する問題も解決していく必要があると思われる。

最後に、学芸員養成科目を担当する教員の所属が、圧倒的に自然科学系において少ないこと、自然科学系博物館で博物館実習を行う場合、博物館類似施設である場合が大きく、また博物館実習を担当する職員も博物館学芸員資格を持たない場合が多い。このことから、自然科学系博物館が法的に博物館として認められるような制度設計、自然科学系の立場で博物館学や学芸員養成課程に携わる人材の養成も併せて課題として挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

江水是仁・浜田弘明・井上由佳：博物館学芸員養成教育を担当する教員の現状に関する考察，國學院大學博物館學紀要第42輯，査読有，pp.11-23，2018

〔学会発表〕(計5件)

Tadahito Emizu, Yuka Inoue, Hiroaki Hamada: Students' Learning Outcomes of the Gakugei-in (Curator) Qualification Programme in Japan, Science Centre World Summit 2017, 2017

Tadahito Emizu, Yuka Inoue, Hiroaki Hamada: Curator (Gakugei-in) training programmes in Japanese Universities, International Committee of Training of Personnel, 2017

江水是仁・浜田弘明・井上由佳：新カリキュラムにおける学芸員養成課程修了者の学びの特徴，全日本博物館学会第43回研究大会，2017

江水是仁・浜田弘明・井上由佳：我が国の学芸員養成課程を担当する教員の特徴，全日本博物館学会第42回研究大会，2016

Tadahito Emizu, Yuka Inoue, Hiroaki Hamada: An Analysis of Curator Qualification Programme in Japanese Universities, The International Council of Museums, 2016

〔図書〕(計1件)

江水是仁・浜田弘明・井上由佳：博物館学芸員課程における学びの特徴と現代社会に対

応じた学芸員養成教育に関する研究,平成 27
~ 29 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研
究成果報告書, 2018

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江水 是仁 (EMIZU, Tadahito)

東海大学・課程資格教育センター・准教授

研究者番号: 4 0 6 0 9 3 5 1

(2) 研究分担者

浜田 弘明 (HAMADA, Hiroaki)

桜美林大学・人文学系・教授

研究者番号: 3 0 3 4 8 4 8 7

(2) 研究分担者

井上 由佳 (INOUE, Yuka)

文教大学・国際学部・准教授

研究者番号: 9 0 4 6 9 5 9 4